

甲斐市立 玉幡中学校 自己評価書

令和3年1月27日 (火) 作成

校長 「新海 直仁」 記述者 職名(教諭)「河西 よしみ」

学校教育目標 「ふるさとを愛し、高い知性と豊かな情操、たくましい意志と創造的な個性をもつ心身ともに健全な生徒の育成」

学校経営方針

- ・奉仕活動・ボランティア活動を中心に据えた特色ある学校づくりに努める。
- ・新学習指導要領の全面実施を見据えた、適切な教育課程の編成・実践に努める。
- ・自ら学ぶ習慣を育てる学習方法の改善と、その指導に努める。
- ・基本的な生活習慣の確立と、自他の尊重を重んじる「心の教育」を推進する。
- ・健康・安全指導の充実を図り、生涯体育の基礎作りを目指す。
- ・生徒指導・教育相談・防災教育等の充実を図る。
- ・学校・家庭・地域の連携を深め、地域とともに歩む教育活動の推進に努める。
- ・学校の教育活動全体を通して、体系的なキャリア教育の推進に努める。

1 全体評価

- 今年度の総合評価は、52観点全てにおいて最頻値がAまたはBの評価となっている。
- 「Ⅲ学習指導」の項目で、「あなたは、生徒が自分の考えを書いたり、表現したりする授業にとりくんでいる。」において昨年度よりもA評価が高い。
- 「Ⅳ生徒指導」において昨年度7項目中3つのA評価だったが、今年度は6つとなり改善が見られた。
- 「Ⅵ学校の特色に関して」の項目においては、全観点においてほぼA評価が最頻値となっている。
- 「地域との連携」の項目で、昨年度よりA評価が多くなったが、コロナの影響で「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」においてはB評価が特に高い。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none">・昨年度同様、全8観点中7観点でA評価である。またAB評価の合計がほぼ98%以上と昨年度より高くなっている。・「あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」において昨年度よりA評価が高い。・「あなたの学校はP→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている」はA評価が高いが「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」について、B評価の方が高い。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・「学校はP→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている」がA評価なのに対し各自では「P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行えていない」と答えている。これについて、教員がどのように実践していけば良いか考える余裕がないことも一因と思われる。このことは、「職場の福利厚生・健康管理」についても関連している。この項目はA評価ではあるが昨年度より低くなっている。今年度はコロナの影響で、さまざまな制約があり、朝の打ち合わせを月曜の朝だけにし、生徒の健康管理に当てた。また昨年度懸案

事項の部活動においても規定を見直し、朝練習を公式試合等1ヶ月前だけとし、来年度以降も見据え教員の定数に合った部活動数の調整に向けて作業を進めている。校務支援システム導入により、勤務時間の明確化が図られ個に対応した指導が行われた。しかし、コロナによるさまざまな対応や取り組みもあり教員のオーバーワークが続いている。来年度も予想されるコロナの影響やクラス減による職員減に対処し教職員のオーバーワークとならないように、今年度同様、事務処理日を設け、また引き続き行事や会議の精選、仕事の効率化および多忙化解消に努め、教員の体調管理に役立て、各職員が「P→D→C→A サイクルを生かした教育活動」を考えられるような職場を目指したい。

II 学校運営について

達成状況

- 昨年度B評価だった項目がA評価となり全体的に改善している。
- 「あなたは、校務支援システムを十分活用していますか」「あなたの学校は職員間のコミュニケーションがとれている」についてB評価が高い。
- 「校内研究に主体的に関わっている」について昨年度はA評価だったがB評価が多くなっている。

改善策

- ・今年度から導入された校務支援システムについては、1度の研修だけだったがそれぞれが自己研鑽し成績処理や事務等、努力して使いこなしている。来年度は2年目となり更に使いやすいシステムになると思うので、活用がすすむと思われる。
- ・老朽化が目立つ校舎ではあるが今年度後半に、校舎内および体育館のLED照明の設置により、以前より快適な環境になっている。またエアコンやストーブなどコロナ禍ではあるが、職員・生徒の健康維持のためにできるだけ制約を緩やかにしている。このことは、昨年度課題であった施設設備の項目の改善に繋がっていると思われる。
- ・職員間のコミュニケーションは、コロナの影響で換気・消毒・健康管理、行事におけるコロナ対応等、今まで以上に気を遣い、時間を費やしているので相互にコミュニケーションを取る時間がとれなかったと思われる。今後も状況は同じなので、上記の学校教育目標の項目で書いたように、今年度同様、多忙化解消を考えると、職員でコミュニケーションを補えるような場面の設定を考えていきたい。
- ・昨年度は学力向上の指定を受け、全職員が校内研に関わる機会が多かったが、今年度は小中連携の指定を受け1年目と言うこともあり、指針をつくる年度だった。来年度は今年度を受けさらに深化するので一人一人が研究の内容を理解し、実践していけると考える。

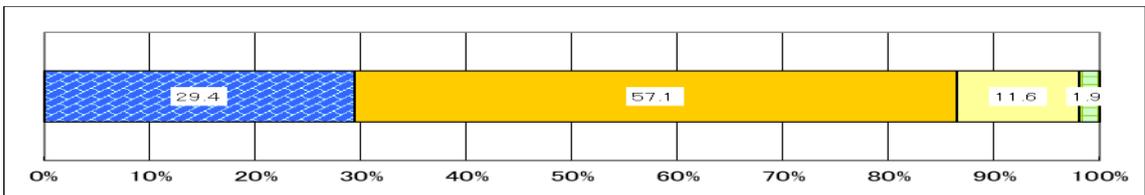
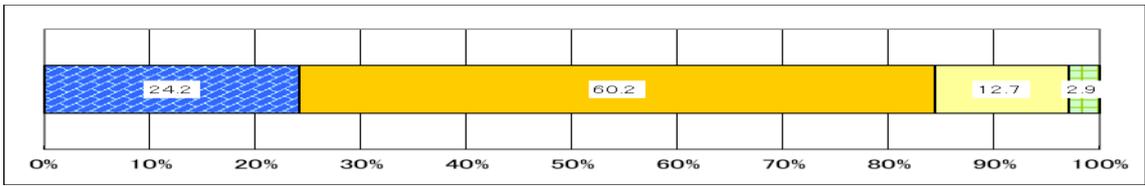
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている」「基礎・基本の定着を図る授業を行っている」「も・ふを意識した授業を行っている」「生徒が自分の考えを書いたり、表現したりする授業にとりくんでいる」においてA評価が高い。
- ・昨年度より改善しているが10観点のうち6観点でB評価が最頻値である。

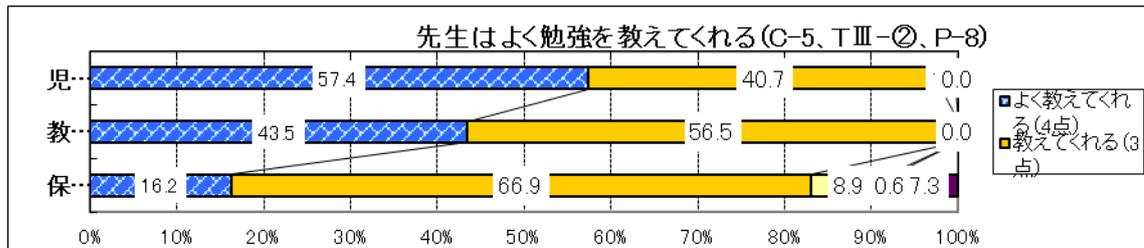
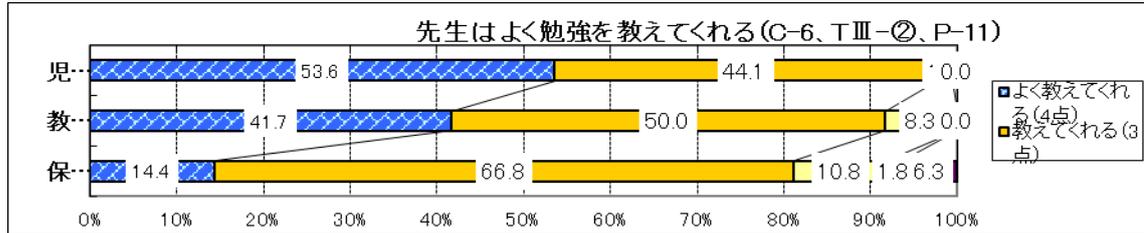
「生徒・保護者へのアンケート」から

④学校の授業は楽しいですか。（上段 R1 下段 R2） 全校集計



※全校では昨年度よりも AB 評価が高くなっている。しかし「C あまり楽しくない D 楽しくない」も 1 割程度いる。

関連項目の AB 評価による比較 (上段 R1 下段 R2)

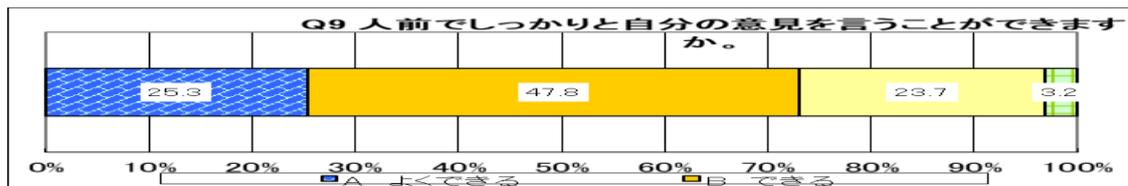


生徒：先生はよく勉強を教えてくださいませんか

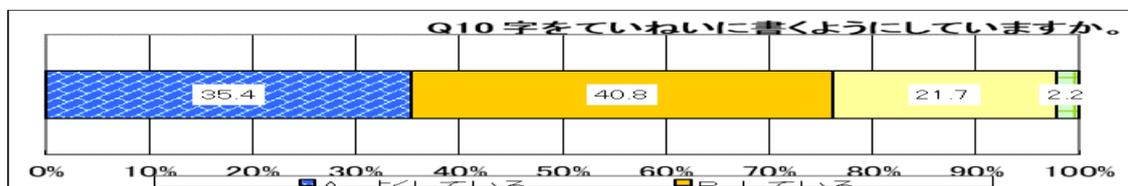
教職員：生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている

保護者：学校は熱心に授業に取り組んでいると思う

⑨人前でしっかりと自分の意見を言うようにしている。〈R2 全校〉

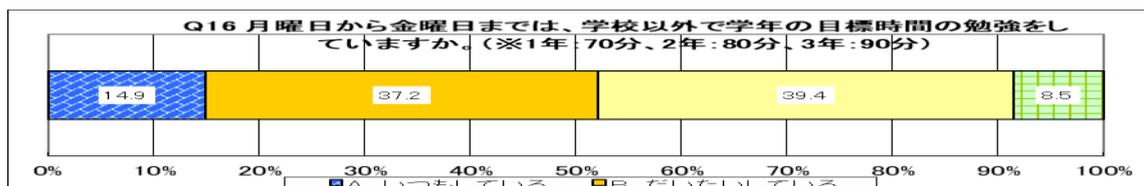


⑩字をていねいに書くようにしている。



⑩月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。

(※1年:70分 2年:80分 3年:90分) (R2) 上段1年生 中段2年生 下段3年生

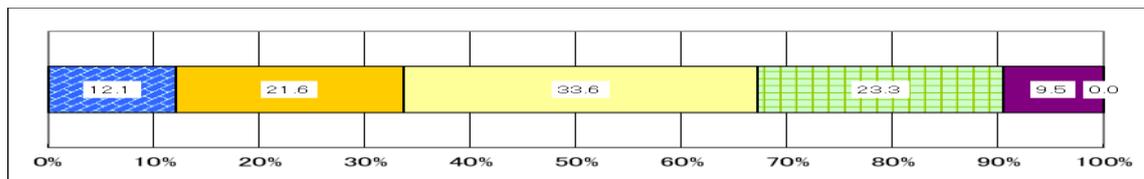
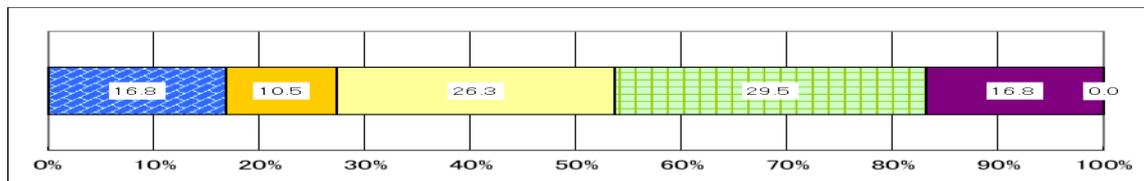
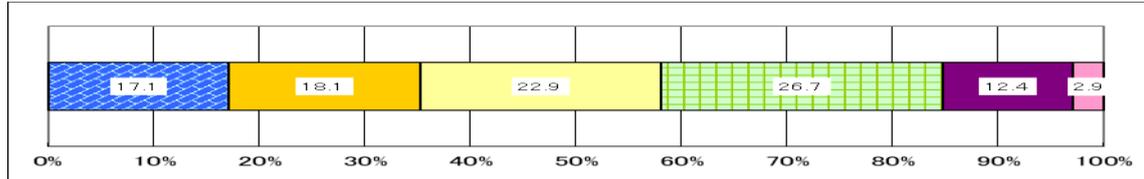


※1年生 64.5%，2年生 61.1%，3年生 91.4%が AB 評価で，2年生は A 評価が低い。

⑰月曜日から金曜日までは家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書を行いますか。
 ・「全くしない」割合が1年生 21.2%，2年生 16.8%，3年生 27.6%である。これは昨年度の同学年より改善している。

⑱スマホ/タブレット/ゲーム機/パソコンを学習以外で1日あたりどのくらいの時間使いますか。A 4時間時用 B 4時間より少ない C 3時間より少ない D 2時間より少ない E 1時間より少ない F 持っていない

(R2) 上段1年生 中段2年生 下段3年生



※2 時間以上している生徒が，1年生 58%2年生 53%3年生 68%いる。

オリジナル項目

⑳あなたはよく忘れ物をしていませんか。

※「よくする」の割合は，1年生 8.6% 2年生 7.5% 3年生 4.3%と学年が上がるにつれて改善している。

改善策

- ・生徒アンケートで、「学校の授業は楽しいですか」は昨年度より達成度が高くなっている。また「先生はよく勉強を教えてくださいか」の観点において，A と B 評価の合計で比較すると，生徒のアンケートで3年間とも 98.0%と高い数値を示している。今年度，コロナの影響で学校開放日が少なくなり保護者の理解を得るのは例年よりは難しかったと思われるが今後もより多くの生徒が楽しくしっかり学習できる状況を提供していきたい。
- ・生徒アンケートの「授業中に発言や発表をしますか」は，昨年度 68%だったのに対し今年度は 72%と上昇している。また学年を追って上昇している。今年度はコロナのために話し合いなど生徒同士の交流がなかなかできない状況下だったが来年度も同様と思われるので，授業の中において積極的に「発言・発表」の機会を確保し，「わからないことをそのままにしない」ようにしていきたい。
- ・生徒アンケート⑫「宿題を忘れずにしていますか」の観点では，AB 評価が今年度 88%である。またオリジナル項目⑳「あなたは授業の忘れ物をしますか」では 34%の生徒が忘れ物をしている。学年による差異があるが，やりとり帳などをつかって継続して丁寧な指導を行ってきたい。
- ・生徒アンケート⑱の「月曜日から金曜日までは，学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」の観点では，「A 勉強をいつもしている」「B だいたいしている」と回答した生徒は1年生 64.5%，2年生 52.1%，3年生 91.4%であった。2年生は CD 評価が約 5 割弱いる。また⑰「月曜日から金曜日まで家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書を行いますか」は全校で「D 全くしない」と回答して生徒が 25%いる。一方，⑱「スマホ/タブ

レット/ゲーム機/パソコンを学習以外で1日あたりどのくらいの時間使いますか。」（保護者も同様）について、2時間以上している生徒が、1年生58%2年生53%3年生68%いる。保護者は子どもの実態を甘く捉えている。昨年度同様に家庭での学習時間や読書時間はゲームに多くの時間が費やされていることが伺える。今年度市指定の「小中連携事業」の取り組みの一つとして「学力向上」「家庭学習」も念頭に、家庭との連携を更にはかっ
ていく必要があり、こうした状況の改善を目指していきたい。・

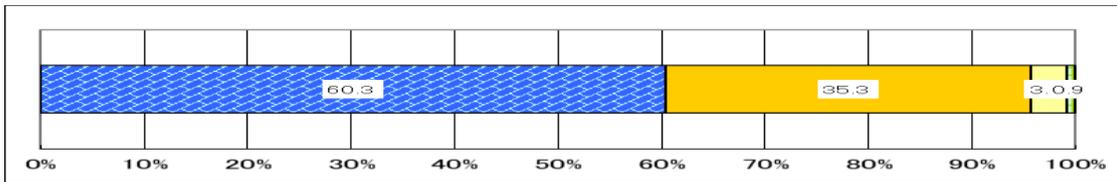
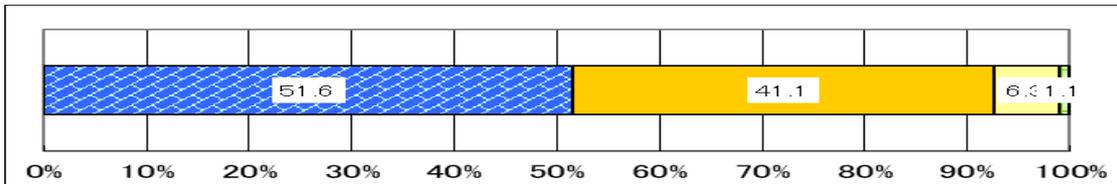
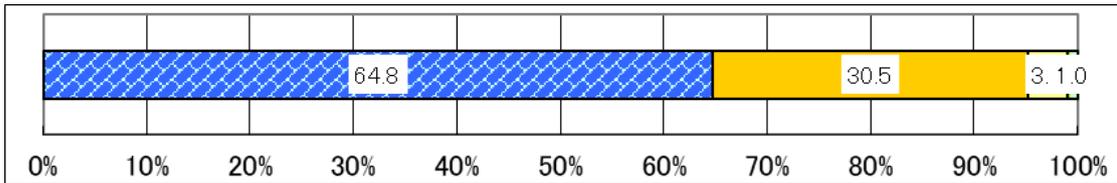
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況
・教師の自己評価は、7観点中6観点においてA評価が最頻値となっている。A評価も全観点において昨年度より改善している。

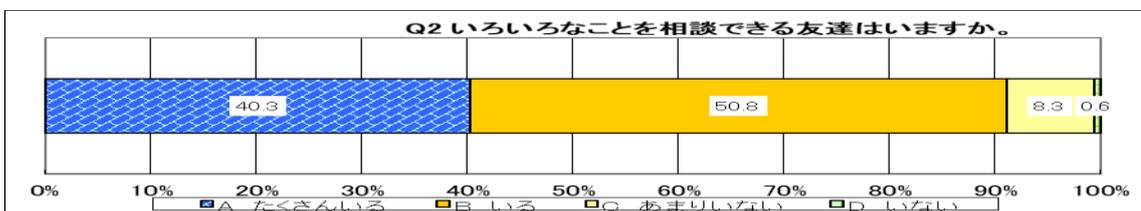
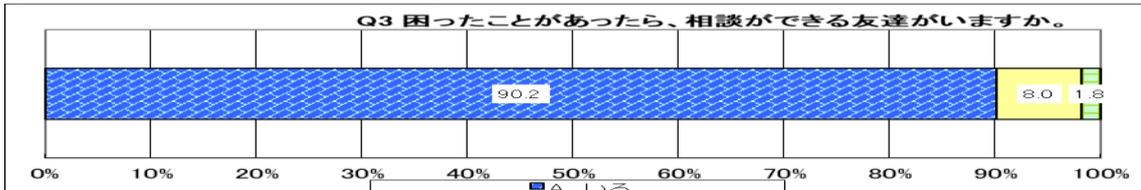
※「生徒アンケート」全校集計より

①「学校は楽しいですか」（R2）上段1年生 中段2年生 下段3年生

A 楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない

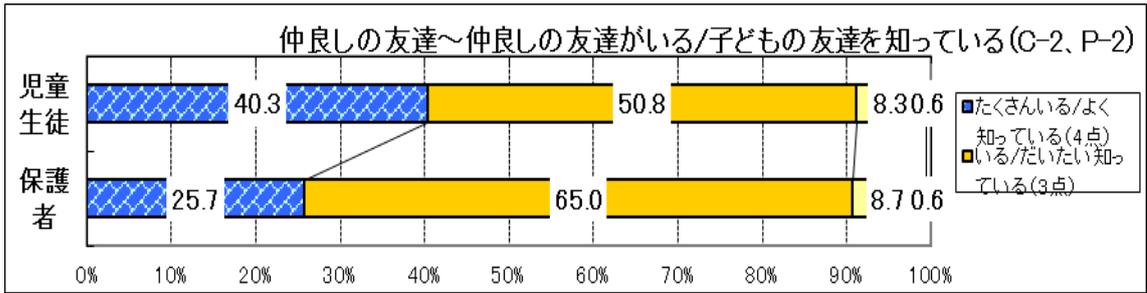


②「相談できる友だちはいますか」全校（上段 R1 下段 R2）



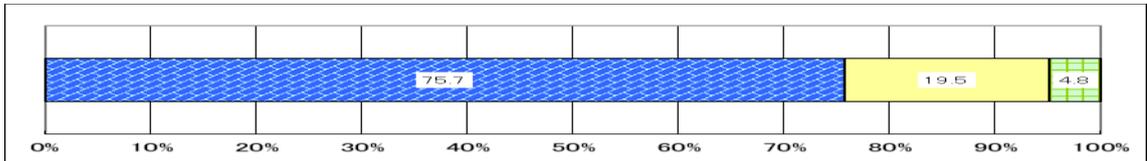
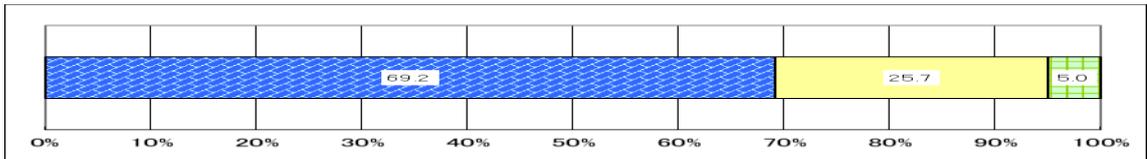
※R1とR2では「Aいる」と「Aたくさんいる」の違いはあるがAB評価はどちらも90%を超えている。

【関連項目のAB評価の合計による比較】(R2)



・生徒も保護者も 90%以上の生徒は相談できる友達がいる，あるいは知っていると答えている。

⑪「困ったことがあったら，相談できる先生がいますか」（上段 R1 下段 R2）
A いる C あまりいない D いない



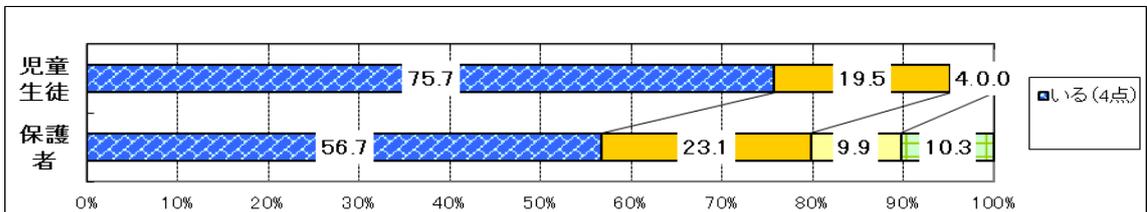
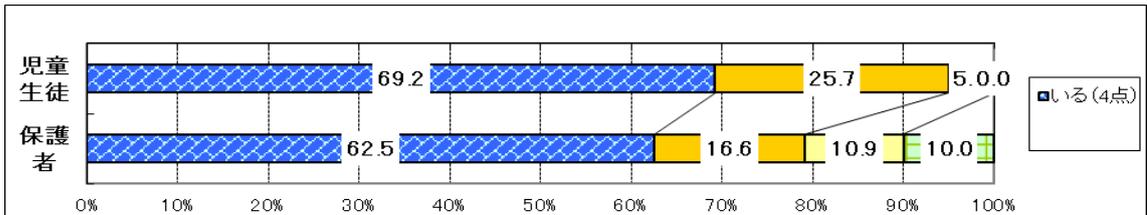
※昨年度よりも「A いる」は増加しているが，「C あまりいない・D いない」の割合が 25%弱いる。

【関連項目の AB 評価の合計による比較】（上段 R1 下段 R2）

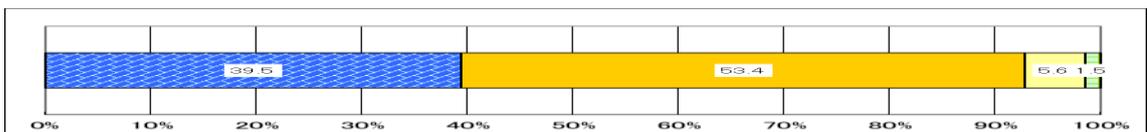
生徒（上段）：困ったことがあったら，相談ができる先生がいますか

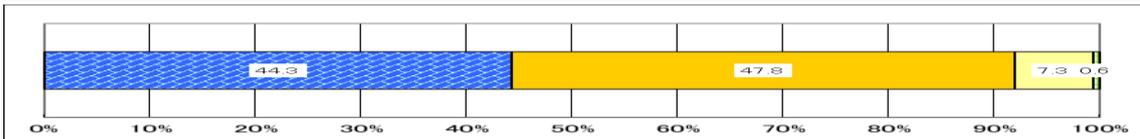
保護者（下段）：お子さんのことで，相談できる先生がいますか

A いる B あまりいない C いない D わからない

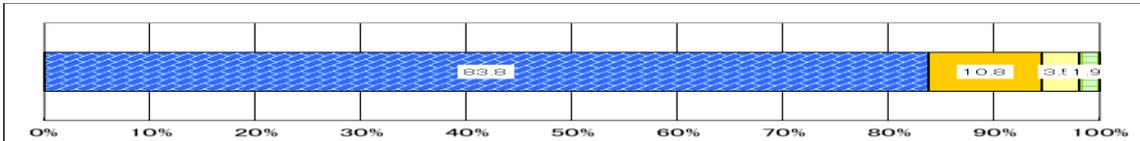


⑬「人が困っているときは，進んで助けていますか」（上段 R1 下段 R2）全校





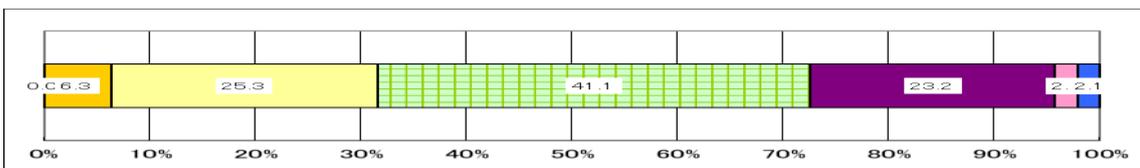
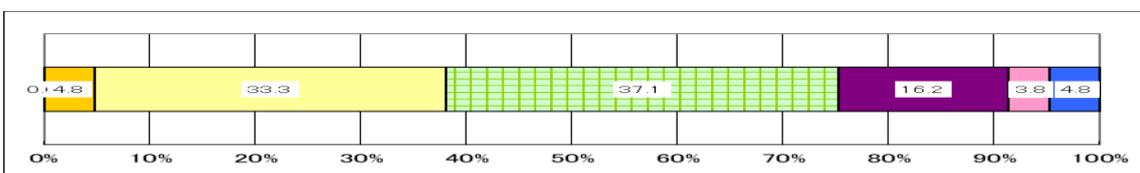
⑰「朝ごはんを食べて登校していますか」 (R2) 全校



⑮月曜から金曜日までは、何時くらいに寝ていますか

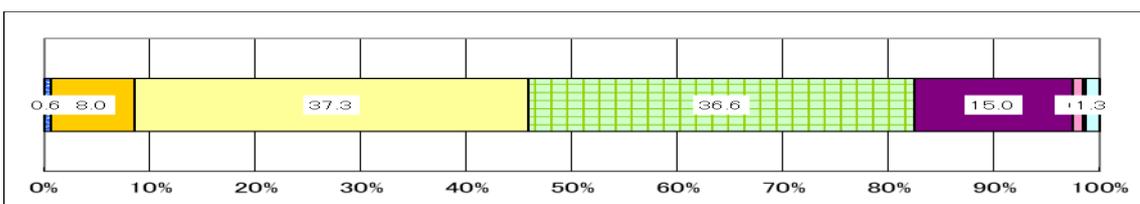
(上段1年生 中段2年生 下段3年生)

A 午後8時前 B 午後9時前 C 午後10時前 D 午後11時前 E 午前0時前 F 午前1時前 G 午前1時過ぎ

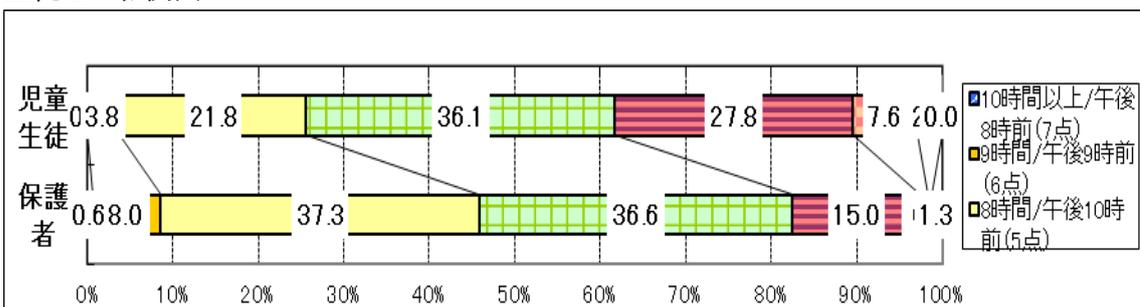


⑱保護者：平均睡眠時間はどれくらいですか 全校

A:10 時間以上 B:9 時間 C:8 時間 D:7 時間 E:6 時間 F:5 時間 G:5 時間未満 H:わからない



生徒との相関図



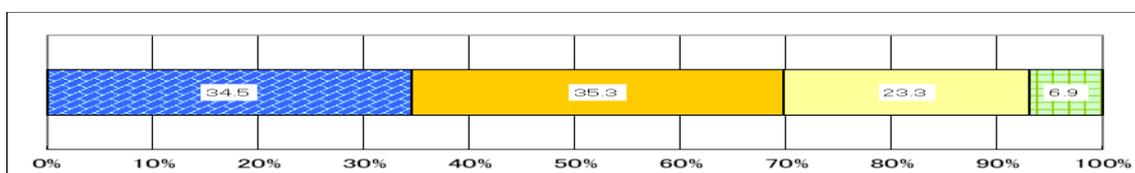
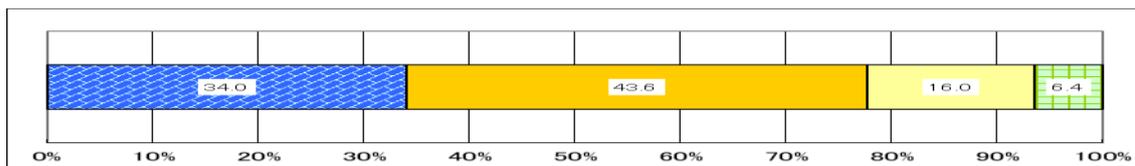
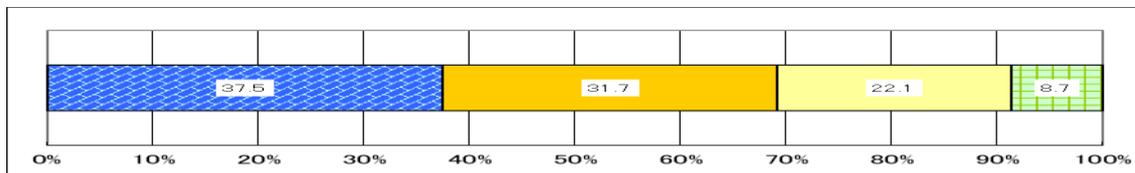
・保護者は全体集計で8時間37.3%，7時間36.6%と多い。生徒は0時以降に就寝している生徒が1年生25%2年生28%3年生60%いる。また午前1時過ぎの就寝も各学年いる。生

徒は保護者が考えているほど睡眠をとっていない。

⑭家の人と学校での様子を話していますか。

・家の人と話をしている割合は80%程度どの学年も達成しているが、1, 2割程度、家の人と話をしていない生徒がいる。

⑯将来の夢や希望をもっていますか。(R2)上段1年生 中段2年生 下段3年

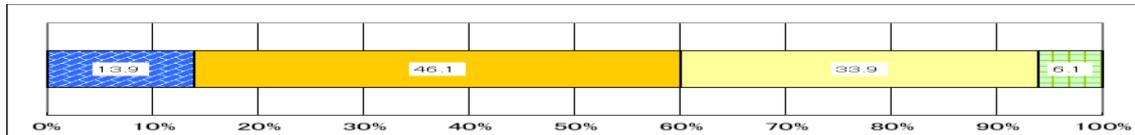
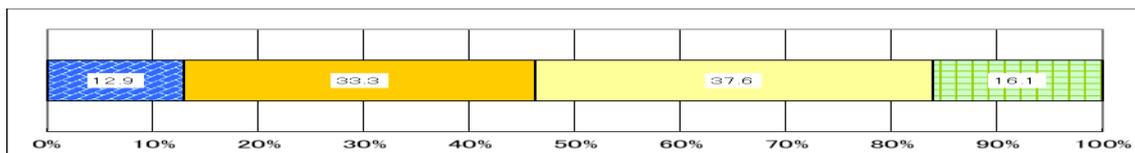


・夢や希望については、1, 3年生は70%, 2年生は78%がAB評価である。

オリジナル項目

⑰あなたはストレスをかかえていませんか。(上段1年生 中段2年生 下段3年生)

Aまったくない Bほとんどない Cある Dとてもある



※1年生35% 2年生53% 3年生40%で2年生のストレスと抱えている割合が1, 3年生に比べ高い。

改善策

・「学校は楽しいですか」「いろいろなことを相談できる友達がありますか」において昨年度同様 AB 評価は高い。甲斐市では生徒間の人間関係の理解を深める Q-U テスト、各学期 1 回のいじめアンケートを毎年実施している。また担任との毎日の「やりとり帳」や「家庭学習ノート」で個別に生徒の状況を把握している。これらの取り組みから、問題事例を迅速に把握し、速やかに学年会議や職員会議、生徒指導部会でその結果を共有する時間を設け、相互に情報交換している。事例によっては外部機関との連携を行うなど、よりよい解決を図ってきたので今後も継続していきたい。

・「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」において、昨年度よりは改善しているが、全校では「いる」と答えた生徒は 75%である。マスクをして給食も黙食で前を

向き、話し合い活動も制限し、教師と生徒が相互理解する時間的余裕もないという状況下で難しい点もあるが、問題の早期発見のためにも生徒が気軽に悩みを相談できるよう、生徒への積極的な声かけをする等、更に全職員で取り組んでいきたい。また「家で話をしていない」と答えた生徒が全体で1, 2割いることも念頭に置き、家庭と連携し今後もこれらの取り組みを継続しいじめの根絶と、生徒一人一人に目を向けよりよい学級生活が送れるよう努めていきたい。

- ・③「人が困っていたら進んで助けていますか」全校 92%が AB 評価で、昨年度と同様である。④「将来の夢や希望をもっていますか。」について、どの学年も 70%以上 AB 評価で、特に 2 年生が 75%と高い。今年度は、コロナのために修学旅行や宿泊学習、職場体験など行事が中止となり、さまざまな「生き方教育」の進め方が難しい状況であったが、今後も道徳の時間を要として、この状況下でできることを模索し心の教育や生き方教育を推進し、より多くの生徒が、夢や希望をもって生き生きと生活できるよう支援をしていきたい。
- ・生活リズムの乱れは睡眠にも起因する。朝ごはんを食べている割合は高いが、睡眠は、全体的に改善を要する生徒が多くいる。また保護者の把握している時間と生徒の睡眠時間に差異がある。コロナの自粛生活も含め家での生活が多くなり、生活リズムの乱れも心配ではある。オリジナル項目「ストレスを抱えていませんか」において、特に 1, 3 年生で 3, 4 割、2 年生で 5 割以上の徒が「かかえている」と回答している。「睡眠」「ストレス」は学校生活や学習にも影響することを考えると、家庭と学校が協力して現状を理解し改善していく取り組みを今後、更に考えていく必要がある。

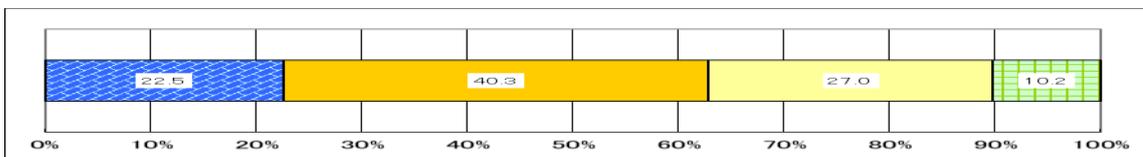
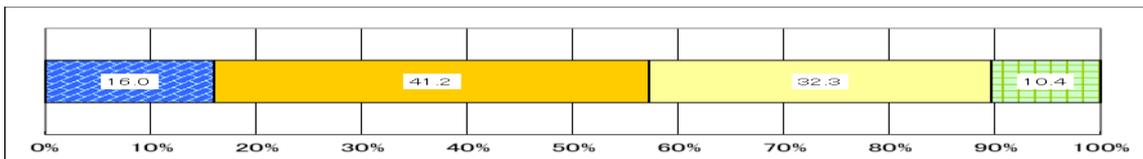
V 地域との連携について

達成状況

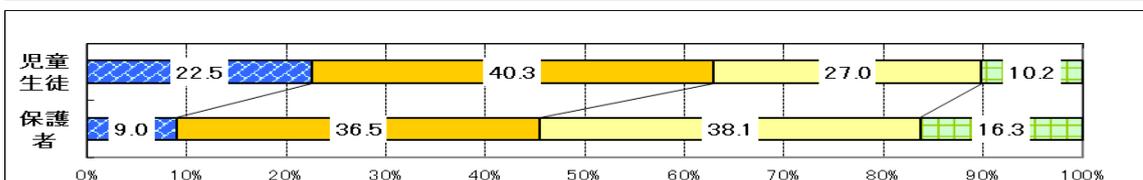
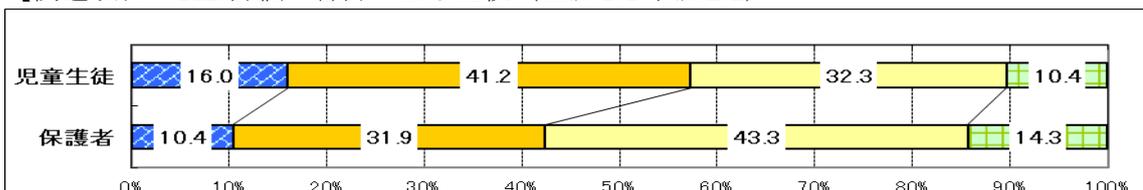
- ・昨年度よりも改善し 9 項目中 6 項目で A 評価となっている。また昨年度課題だった「保護者は PTA 活動に協力的である」が A 評価となった。
- ・「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」においては B 評価が高い。

※「生徒アンケート」全校集計より

⑩今住んでいる地域の行事に参加していますか（上段 R1 下段 R2）全校

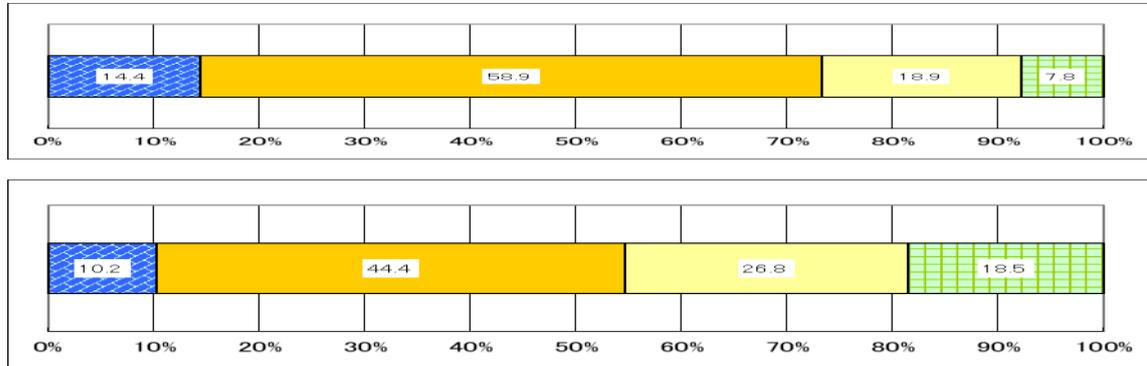


【関連項目の AB 評価の合計による比較（上段 R1 下段 R2）



生徒（上段）：今住んでいる地域の行事に参加していますか
 保護者（下段）：お子さんは今住んでいる地域の行事に参加していますか
 A:よくしている B:だいたい参加している C:あまり参加していない D:参加していない

保護者⑪「PTA 活動に参加していますか」（上段 R1 下段 R2）



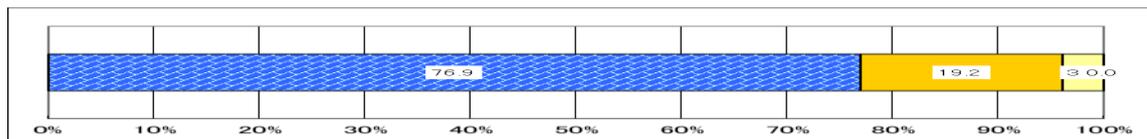
改善策

- ・「保護者の PTA 活動への参加」が昨年度より低くなっているのは、今年度コロナのために、PTA 活動の多くは中止せざるを得なかったため、AB 評価が低くなっている。また「生徒の地域の行事に参加」もほぼ同様の結果である。コロナの終息を願うばかりである。
- ・教職員の「地域の人材活用・施設活用」「保護者や地域の願いに応えるため要望を聞くなど情報収集を行っている」「保護者は、学習指導や生活指導に協力的である」において B 評価が最頻値である。コロナのために講演会の中止等、地域の人材の活用も難しい状況であったが、今後も学校運営委員会や学校関係者評価委員会等コロナ禍でできることを模索しながら、地域や保護者の声を聞く機会を利用し、地域人材や地域の要望を聞いたり、保護者への協力を促したりして、教育活動に生かしていきたい。

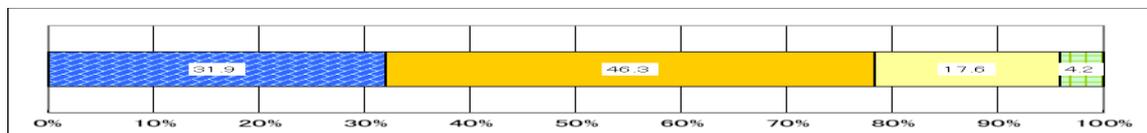
VI 学校の特色に関して

達成状況

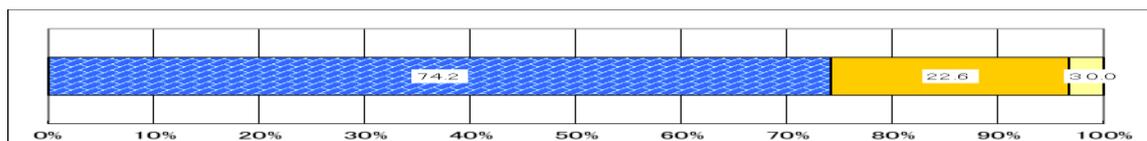
- ・今年度は昨年度よりさらに改善し、8 観点全てにおいて A 評価が最頻値となっている。
- ・⑦「あなたは生徒が夕学に取り組むように努めている。（教員）」



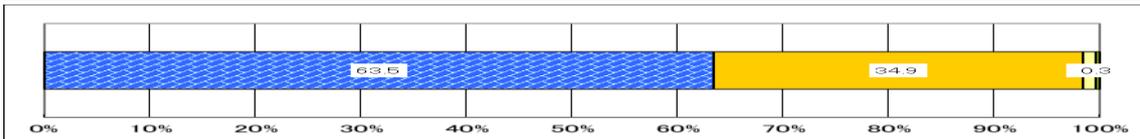
- ・⑳「あなたは夕学に意欲的に取り組んでいますか」（全校生徒）



- ・⑤生徒が時間を意識して行動できるよう指導に努めている。（教員）」



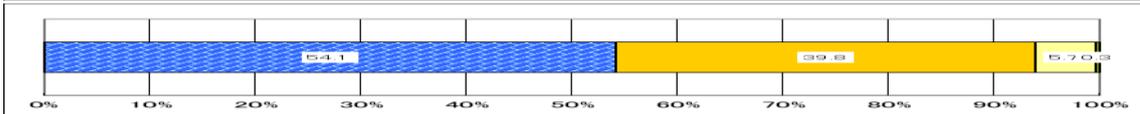
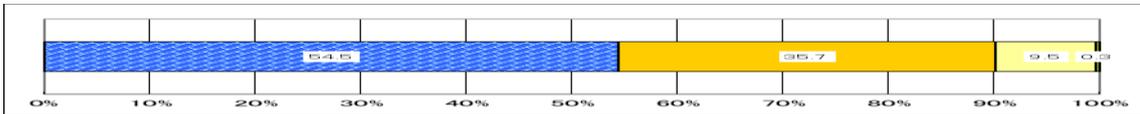
- ・㉑「学校のきまりや約束事を守っていますか。（全校生徒）」



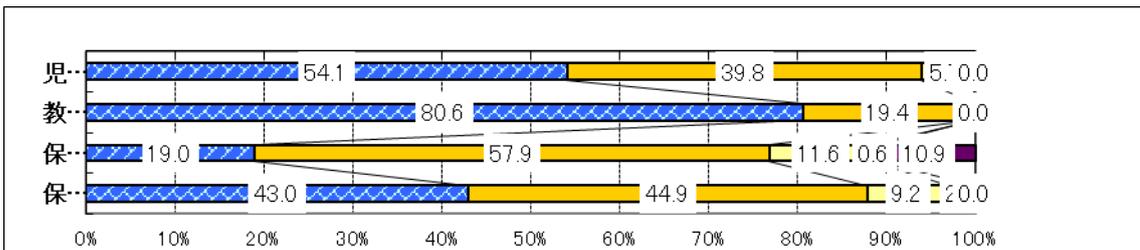
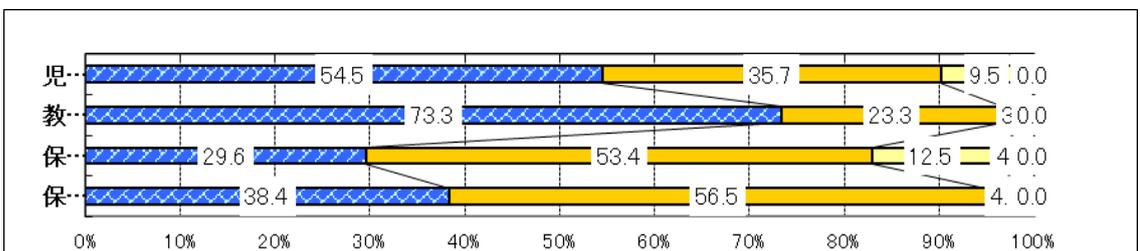
※「生徒アンケート」全校集計より

⑱地域の人と出会ったら挨拶していますか。(上段 R1) 全校

⑳だれとでも挨拶をしていますか。(下段 R2) 全校



【関連項目の AB 評価の合計による比較】(上段 R1 下段 R2)



生徒：地域の人と出会ったら（だれとでも）挨拶をしていますか

教職員：生徒が進んで挨拶をするよう，指導に努めている

保護者①は地域の人との挨拶，保護者②は家庭での挨拶

改善策

- ・学力向上の指定を受けて取り組んだ夕学も3年目を迎え，指定は終わったが「夕学」の習慣化が「学力向上」や「家庭学習の習慣化」に繋がると考え取り組んできた。玉幡中の特色として定着している。教師の指導と生徒の意識は多少ずれはあるが，今後も継続して粘り強く取り組んでいきたい。また今年度は小中ギャップの解消のためにも小中連携の指定を受け，小学校も同様の取り組みを行ってきた。来年度入学生の成果が楽しみである。
- ・数年前までは生徒指導に多くの問題を抱えていたが，生徒の規範意識はアンケート結果にあるように「⑱きまりや約束事を守っていますか」において98%がAB評価である。規範意識は正常な学校活動を維持するのに不可欠である。今後もさまざまな取り組みにより，この状態を維持していきたい。
- ・教師の登下校指導におけるあいさつや保護者や保護司の正門でのあいさつ活動，生徒会のあいさつへの取り組みや，小中連携でのあいさつ運動など様々な活動の成果で，このような状況下でも生徒のあいさつへの意識は昨年度とほぼ同じだった。今後も開かれた学校を目指し，継続して活動を進めていきたい。

3 まとめ<成果と課題>

- ・今年度は昨年度末からのコロナによる休校により、学校再開後も多くの制約と消毒や健康管理、多くの行事の見直し等、コロナに翻弄された1年だった。しかし、毎日の検温等、保護者の協力や教師・生徒の努力、国の政策による学習支援スタッフ・スクールサポートスタッフの増員等により、コロナ禍でも正常に教育課程を元の状態にできるだけ近づくように取り組んできた。そのことにより教育課程はほぼ例年の履修に近づいている。今後もできることを着実にを行い、生徒が健やかに成長できるよう取り組んでいきたい。
- ・本校には生徒指導上の諸問題がかつては多くあり、甲斐市教育委員会をはじめとした関係諸機関と連携する中で、それらの問題解決を図ってきた。様々な取り組みを経て今では落ち着いた学校生活を生徒たちは送っている。しかし今後も危機管理意識をもって、この状態を維持・向上させられるよう、職員一丸となって安心安全な学校・玉中教育の更なる向上に努めていきたい。
- ・保護者・保護司・生徒による朝のあいさつ運動、毎日の教職員の登下校指導を例年通り継続的に行ってきた。また例年行われてきた9月の保護者・生徒で校庭及び周辺の除草作業を、PTA役員の方と教職員という形にはなったが実施できた意義は大きい。このような状況でもPTA役員さんを中心に、学校に貢献しようと努力してくださっていることに対し、とても心強く勇気をいただいた。コロナが終息したあとも地域と連携していく足がかりとなった。今後もさらに地域とともにある玉幡中を目指し、継続していける取り組みを考えていきたい。
- ・例年、地域や家庭との連携を推進するため、学校開放日を設け地域に開かれた学校づくりに取り組んできた。しかし今年度はコロナの影響で、2学期に学年を分散した授業参観と学園祭体育の部での3年生保護者の参観のみとなった。今後もコロナ禍において地域や家庭との連携を深める有意義な機会を考えていきたい。
- ・校内研で9年間を見通した小中連携による「学力向上」をテーマに「家庭学習の充実」「帰りの会の前の授業の振り返り」「やりとり帳による担任と生徒とのつながり」など学校では様々な取り組みを行って学習面精神面で生徒支援に努めている。しかしアンケートにもあるように、学校での授業に関わる課題や、家庭でのスマホ等の使い方や睡眠時間や学習時間についての基本的な生活習慣の見直し等、学校と家庭が連携して取り組む必要があることについて、学級や学年通信での啓発など改善策を考えていきたい。